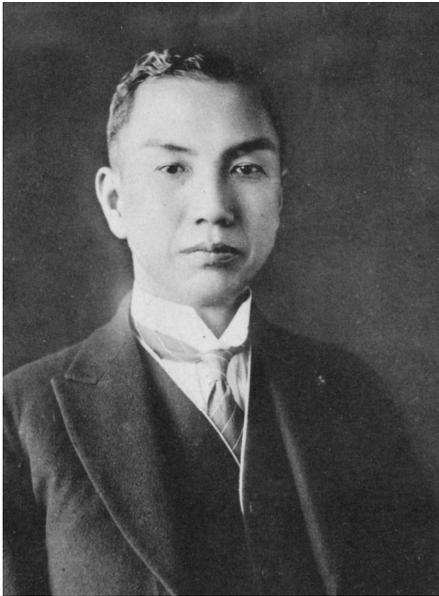


# モダン名古屋の旗手

## 松坂屋社長 伊藤次郎左衛門



伊藤次郎左衛門 祐民

出典：『松坂屋創立30周年記念写真帳』1940

る存在」であった。来客用、事務用併せてエレベーター10台など、最先端の設備を備えた。百貨店は、先端文化の発信基地であり、斬新なデザインの宣伝誌「モーラ」（百貨を網羅するの意味）は、市民が憧れる流行の発信誌でもあった。

### ■モダン文化の発信基地、百貨店の創設

松坂屋社長、伊藤家第15代当主の伊藤次郎左衛門祐民（1878～1940）は、名古屋のモダン都市づくりに大きな役割を果たした。伊藤家は尾張藩以来の豪商で、名古屋財界では大きな位置を占めていた。1909年、伊藤祐民は渋沢栄一、神野金之助等と渡米、海外の百貨店事情を視察して帰国した。1910年、栄町西南角、旧名古屋市庁舎跡に名古屋初の百貨店「いとう呉服店」を開業、「行灯より電灯にvariしより以上の進歩」と絶賛された。店舗は、ルネッサンス様式の地上3階建て、屋上には大小4個の優雅なドームが設置されていた。

1925年5月には、南大津通に新築移転し、松坂屋へと改称した。新店舗は鉄骨建の地上6階建て、総面積2万㎡で、名古屋の建物では「お城と肩をなら



南大津通の松坂屋本店

出典：絵はがき（個人蔵）

### ■名古屋商工会議所会頭：モダン都市づくりを推進

1927年11月には名古屋商業会所の会頭に就任し、市行政と連系しながら、名古屋駅改築、国際飛行場の開設、名古屋観光ホテル・和合ゴルフ場の設立などに尽力し、民間のリーダーとしてモダンな都市づくりを支えた。公会堂建設に際しては私財20万円の寄附を申し出た。

### ■御幸本通りの再開発、揚輝荘での国際交流

伊藤家の拠点であった御幸本町通りの整備にも力を注ぎ、一大文化商業地化を目指した。洋画専門の八重垣劇場や国技館、伊藤銀行・昭和ホール等を建設した。

賞王山地区に建設した別荘揚輝荘を舞台に、ビルマはじめ東南アジアの留学生の受け入れなど国際活動を展開している。モダン都市名古屋の形成には、伊藤次郎左衛門の活動や個性が大きく反映していた。



洋画専門映画館八重垣劇場

出典：『揚輝荘主人遺稿』